



日野市立カワセミハウスは旧環境情報センターの機能と地区センター機能を融合して平成29年4月1日に誕生しました。このカワセミハウス通信は日野市の環境に関する情報に加え、カワセミハウスで行われる活動や開催予定の行事・イベントなどの情報を発信していきます。

日野市立カワセミハウスが開館して3か月が過ぎました。新たなコミュニティづくりの拠点として多くの方々にご利用いただいています。この3か月間の利用実績をご紹介します。

日野市立カワセミハウスは日野市の新たなコミュニティづくりの拠点として4月1日にオープンしました。カワセミハウスで開催されるイベントやセミナー、趣味の会などに参加される方や、憩いの場として利用される小さいお子さんをつれたお母さんや年配の方、放課後のひとときを友達との遊びや勉強の場として訪れる小学生たち、黒川清流公園などの散策の途中に立ち寄られる方、水や緑、生きものの情報を求めて来られる方など幅広い年齢層の方々様々な目的で来館され、市民を中心に市外から訪れる方も多く毎日賑わっています。カワセミハウスでは会議やセミナーなどで使用できる集会室を3室用意しています。カワセミハウス協議会や市内の環境団体、近隣の自治会などこの3か月間で3室合計で延べ2,406人の方が使用しました。3か月間の使用状況の内訳は以下の通りです。

＜集会室使用者数（延べ）＞				
	4月	5月	6月	合計
集会室1	212	464	284	960人
集会室2	102	298	157	557人
集会室3	273	309	307	889人
合計	587	1071	748	2406人

4月末から5月中旬にかけて来館者を対象にカワセミハウスに関するアンケート調査を実施しました。回答者は90人です。アンケートの集計結果の概要をご紹介します。

- 来館者がお住まいの地域は東豊田や多摩平など地元が多いですが、平山や程久保、万願寺など市内の様々な地域から来館しています。また国立や府中など市外からの来館者も1割ほどいました。
- 年代をみると10代～40代を中心に幅広い年代層に使用されていますが、子どもたちの使用も目立ちます。
- 使用した感想は「よかった」80%、「まあよかった」16%と高評価でした。

よかった点は「きれいに管理されている」「明るく静か」「新しく広々していて気持ちよい」「木の香りがよく落ち着く」「ロケーションがよい」などがあげられました。また、少数ですが集会室使用者から「声（音）が響く」という指摘がありました。

今後もカワセミハウスを有効に活用していただき気持ちよく使用していただくために、どなたでも気軽に使用できる居心地のよいコミュニティづくりの拠点を目指していきます。

日野市出身の版画家蟹江杏さんとのコラボレーション事業がスタートしました

このコラボ事業は、カワセミハウスを核として、日野市出身の版画家蟹江杏さんと意欲ある市内の中学校生徒及びカワセミハウス協議会などとの協働のもと、次世代に伝えたい日野市の自然環境をテーマに日野市やカワセミハウスのイメージを具現化するロゴマークやシンボル、絵本などの作品を創ることを目的としたものです。7月22日にキックオフ、その後11月まで5～6回ワークショップを実施し、ショートストーリーで絵本をつくり、絵本で出てきたキャラクターをロゴマークなどにつなげていきます。完成した絵本などの発表会は来年3月3日を予定しています。

第1ステップのワークショップでは、黒川地域の散策や地域学習を通して「黒川清流公園や保全緑地、多摩平の森など黒川周辺の環境」や「日野市らしい水と緑と多くの生きものとの暮らしの良さや大変さ」などの情報を集め整理し、自由な意見交換を行なっていきます。そして、絵本づくりに向けて大まかなストーリーや登場キャラクターのイメージなど、みんなで物語を考えます。

第2ステップでは絵本制作の準備に入ります。検討したストーリーを整理し絵本のイメージをつくり、キャラクターやシンボルを具現化していきます。

第3ステップは絵本やカワセミハウスのシンボルなど成果物の利用を検討します。また、蟹江杏さんの原画をカワセミハウスに展示、その魅力を活用して来館者に日野市のファンになっていただくことを目指します。

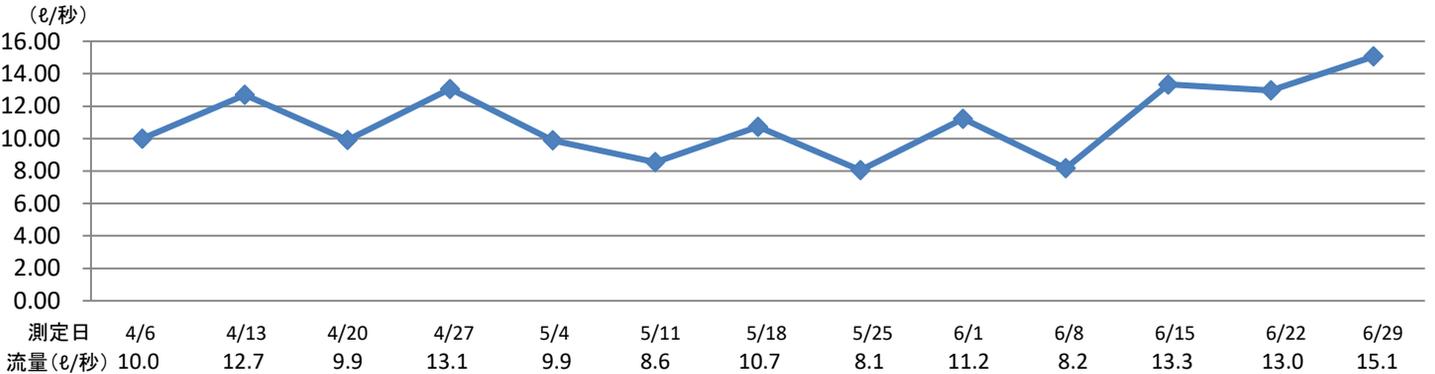
最終ステップでは絵本の構成を決定し、絵本を制作します。11月の中旬には絵本が完成する予定です。その後、絵本を印刷し、3月3日に絵本の完成発表会をカワセミハウスで開催します。

どんな素敵な絵本ができあがり、どんなロゴマークやシンボルができるか、皆さん、ご期待ください！

黒川清流公園の水路で湧水量の測定を始めました

カワセミハウスでは4月から原則毎週木曜日の朝、黒川清流公園あずまや池出口の水路で湧水量測定をスタートしました。水路幅 (cm)、水深：水路の左・中央・右の水深の平均 (cm)、水路100cm当たりの流速 (100cm/秒) を測定し、これらのデータをもとに、1秒当たりの流量 < 水路100cm当たりの水の体積 ÷ 水路100cmの流速 (ℓ/秒) > を算出します。また水温や電気伝導率も測定しています。湧水量に大きな影響を与える降水量についても、前回測定日から今回測定日前日までの7日間の八王子地区の降水量 (mm) を参考にしています。1回当たりの平均流量と月間の推定流量をみると、4月は11.4ℓ/秒 29,550トン、5月は9.3ℓ/秒 24,910トン、6月は12.2ℓ/秒 31,620トンで、雨の多かった6月の流量が多くなっています。

今後、カワセミハウス通信で3か月ごとの測定結果を発表していきます。



日野市の野鳥たち (その3) 川で見られる野鳥～魚を食べる鳥～

日野市立カワセミハウス 村岡明代

日野市には何種類の野鳥がいるのでしょうか。ちょっと難しい質問ですが、「日野市で過去に1度でも確認されたことのある鳥」ということでお答えすれば、日野市が行った「生物多様性地域戦略基礎調査(平成27年度)」で、これ以前に公表された9つの文献により日野市内で確認されている鳥類は217種とあります。このデータを更に2つの文献で補完した結果、日野市内で確認されている鳥類は218種(2016年10月現在)です。このリストから、個人的な観点ですが「ほぼ毎年見られる鳥」を抽出すると、留鳥(1年中いる鳥)が40種、夏鳥(夏になると外国から渡ってくる鳥)が9種、冬鳥(冬になると外国から渡ってきたり高い山から下りてくる鳥)が32種でした。つまり、夏で約50種、冬で約70種の野鳥が、日野市で暮らしているということになります。

日野市には、多摩川と浅川という大きな川が流れています。下水道の普及で川の水質が良くなり、夏には川で遊ぶ子供たちの姿も多く見られるようになりました。今回は、市内の川で見られる野鳥のうち魚を主に食べる鳥をご紹介します。魚を食べる鳥が多く見られるということは川の生態系が豊かな証拠です。今回紹介する鳥たちがこれからも日野市で暮らしていけるよう、生きもの豊かな川であってほしいと思います。

コサギ(ペリカン目サギ科)

日野市で見られる白鷺(白いサギ)の仲間では最も小さく、全長60cmほどです。川の浅瀬を歩きながら足で魚などを追い出し、捕えて食べます。足の先が黄色いことと、頭に2本の冠羽があるのが特徴です。多摩川や浅川といった大きな河川だけでなく、程久保川や用水路にも餌を採りに来ることがあります。



ダイサギ(ペリカン目サギ科)

日野市で見られる白鷺(白いサギ)の仲間では最も大きく、全90cmほどです。川の浅瀬でじっと待ち伏せたり、ゆっくり歩いて獲物(主に魚)を探し捕えて食べます。コサギと比べると首が長く、足は全体が黒く、頭に冠羽はありません。冬はくちばしが黄色、夏には黒くなり、体に美しい飾り羽が見られます。



アオサギ(ペリカン目サギ科)

大きさはダイサギとほぼ同じぐらいです。背中は青灰色、頭は白色で額から目の上を通る黒色の帯があり、この黒色帯とつながるように頭には黒色の冠羽があります。餌は主に魚で、採り方はダイサギと同じです。



カワウ(カツオドリ目ウ科)

体長80cmほどでほぼ全身が黒く、カラスと間違えられそうですが、くちばしが黄色いことと、飛ぶときに首を伸ばしていることが見分けるポイントです。水中を泳いで魚を追いかけ、捕えて食べます。



カワセミ(フッポウソウ目カワセミ科)

エメラルドグリーンに輝く背中が美しい「空飛ぶ宝石」といわれる小鳥で、「日野市の鳥」にもなっています。水中にダイブして小魚などを捕食します。大きな川から用水路、池など、様々な水辺で見られますが、餌となる小さな魚やエビがいることが生息できる条件となります。



(写真提供：小久保雅之氏)

平成29年度「エコキング夏」のアンケート調査結果がまとまりました

平成29年度「エコキング夏」のアンケート調査の結果がまとまりました。「エコキング」とは、市内の全小学校にご協力いただき、小学生のいる家庭の夏と冬の“ある1日”のエコ活動を通して、CO₂がどれくらい削減されるかを調査するものです。日野市環境基本計画推進会議CO₂グループ主催で平成18年からスタートし今年で12年目です。

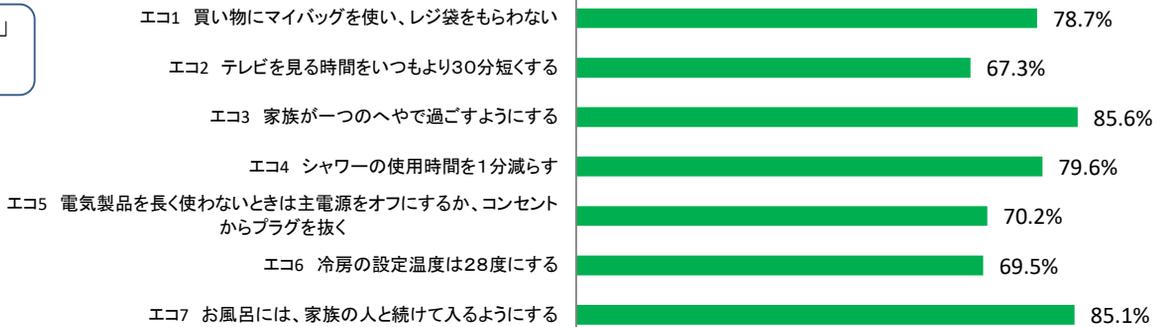
平成29年度夏の調査は6月17日（土）の1日間のエコ活動について調べました。市内の小学生の約8割にあたる7,271人が参加、下記の7つのエコ活動の家庭での実施状況を聞きました。調査の集計結果をみると、全小学校計でエコ活動の実施率が最も高かったのは、エコ3「家族が一つのへやで過ごすようにする」で85.6%、次いでエコ7「お風呂には、家族の人と続けて入るようにする」が85.1%で続きます。最も低かったのはエコ2「テレビを見る時間をいつもより30分短くする」で67.3%でした。また、エコ6「冷房の設定温度は28度にする」の実施率が低かったのは、まだエアコンを使っていない家庭も多かったためようです。

7つのエコ活動の実施者数にそれぞれの活動で削減されるCO₂の量をかけて算出した6月17日の1日間で削減されたCO₂の総量は全小学校計で2,642,019gで、これはテニスコート約10.6面分※の森林が1年間に吸収するCO₂の量に相当します。したがって、6月17日のエコ活動を1年間続けるとするとこの365日分で、テニスコート約3,857面分（これは日野中央公園22,849m²の約84個分に当たります）の森林が1年間に吸収するCO₂が削減されることになります。

毎日の暮らしの中での小さなエコ活動の積み重ねがCO₂の削減に大きな効果があり、ひいては地球温暖化の防止にもつながります。

※テニスコート1面（約500m²）当たりの森林が1年間に吸収するCO₂の量250kgで換算

平成29年度「エコキング夏」
7つのエコ活動実施率
—全小学校計—



平成29年度「第9期 市民環境大学」「第13期 雑木林ボランティア講座」が開講しました

☆第9期市民環境大学が開講しました

第9期市民環境大学が5月11日（木）に開講しました。第9期の講座生は27名です。講座は5月から7月の前期と、10月から12月の後期に分けて合計20回開かれます。市民環境大学は地球規模から身の回りの環境まで幅広く考え正しく知ること、問題解決のためにみんなでできることを実践することを目的としています。

その内容は「地球温暖化の影響と対策」「水の大切さと水の文化」「水質の汚染を考える」「酸性雨の生態系への影響」「オゾン層の役割」など、いろいろな事例や最近の話題などを取り上げ、身の回りから大学で行っているような専門的なものまで、環境についてわかりやすく説明していきます。また、今期から春夏秋冬の4回（夏と冬は市民参加の公開講座）、黒川清流公園をフィールドとして水や緑、生きものなど日野の自然について学ぶ講座もスタートします。

8期までの講座修了者は累計で119人です。修了者のうち有志の皆さんがOB会を結成し毎月1回（第3木曜日）、市内2地域での空間放射線量の測定や黒川清流公園を中心とした湧水量の測定など活発に活動しています。

☆第13期日野市雑木林ボランティア講座が開講しました

第13期日野市雑木林ボランティア講座が5月20日（土）に開講しました。第13期の講座生は30名です。講座は5月から来年3月まで全10回、雑木林の基本的な講義から始まり、植生、鎌・ノコギリなど手道具、刈払い機、チェーンソーの実習など雑木林の管理ノウハウを1年間にわたり習得するものです。また、里山づくりや雑木林の植物に関するセミナー、市内の緑地や市外の緑地ボランティアの視察なども行います。

現在、放置されたままになっている雑木林は、わずか50年前まで私たちの暮らしにとってかけがえのない大切な場所でした。日野市雑木林ボランティア講座は、昔のような明るく健全な雑木林を維持管理し次世代に引き継ぐことを目的に、市民と行政との協働で平成17年にスタートしました。12期（平成28年度）までの講座修了者は累計で269人になっています。この講座を通して専門的な知識や技術を習得した雑木林ボランティアを育成し、新しい緑の保護団体を設立したり、既存の緑の団体で活躍してもらおうと頑張っています。昨年5月に発足した「谷仲山緑地を守る会」もその成果のひとつで現在メンバー25名が活発に活動しています。



講義の様子



剪定ばさみの実習

■5月～7月前半の活動報告

6月18日(日) みんなの環境セミナー「駅のツバメ」開催

6月18日(日) 13:00～15:00 豊田駅周辺のツバメを観察するセミナーを開催しました。講師は日野の自然を守る会の金子凱彦氏とカワセミハウススタッフ村岡明代氏です。参加者は11名。駅周辺に営巣しているツバメの巣は1回目の子育てが終わり、空になった巣や2回目の抱卵に入っている巣が多かったですが、小さな雛のいる巣も2つありました。金子講師のツバメのお話も興味深く、いろいろな質問が飛び交いツバメのことを深く知ることができました。参加者からは「ツバメの姿が見え、声が聞こえ感激した」「金子先生のお話がわかりやすくとても楽しかった」「日野、豊田がツバメの育つ街であることが確認でき誇らしく思った」などの感想が聞かれました。

7月6日(木) みんなの環境セミナー「黒川清流公園の夏を探そう！」開催

7月6日(木) 10:00～12:00 市民環境大学公開講座として開催。講師はカワセミハウス館長で東京農工大学名誉教授の小倉紀雄氏とカワセミハウススタッフ杉浦忠機氏です。黒川清流公園を訪れ、湧水の流れや雑木林の木々や草花などを観察し、豊富な湧水の成り立ちや雑木林の大切さを学びました。参加者は環境大学の講座生22名と公募市民17名の合計39名で、参加者の感想として「身近な樹木や植物の解説がわかりやすく楽しかった」「自然の大切さを再認識した」「とても楽しく気分転換できた」などがあげられ、また「他市からも参加できる観察会を年に何度かやってほしい」といった要望も寄せられました。

8月13日に第2回「浅川アユまつり」が開催されます

第2回「浅川アユまつり」が8月13日(日) 9:30～14:30、浅川ふれあい橋周辺にて開催されます。楽しいイベントが盛りだくさんです。有料グルメコーナーもあります。皆さん、ふるってご参加ください！

- お魚ふれあい体験コーナー Aコース：ピストン釣り大会 Bコース：魚のつかみ捕り
- 伝統漁法の披露 石倉漁・眼鏡漁・穴釣り漁・投網漁
- アユの塩焼き 3000尾無料配布 朝9時から浅川スポーツ公園で引換券配布
- 河川敷イベント ターザンロープ・生きものかるた遊び・ヨーヨー釣り・フライフィッシング体験教室
- 地ビール祭り 同時開催
- エコアラ・エコクマコーナー 地球温暖化と夏の省エネセミナー・園児と踊るエコダンスなど

詳しくはポスター・チラシなどをご覧ください。お問い合わせは日野市役所環境保全課 ☎042-514-8294まで。

* 7後半～9月の行事・イベント予定 *

7月23日(日) みんなの環境セミナー「黒川清流公園で昆虫採集をしよう！」

黒川清流公園で昆虫採集をして日野の昆虫たちについて学びます。講師は日野の自然を守る会の森川正昭氏。7月1日発行の広報「ひの」でお知らせしましたが、すでに定員30名に達しました。

7月20日(木)～25日(火) カワセミハウス写真展「日野市の昆虫たち」

日野の丘陵地や河川敷に生息する昆虫たちの生態を、日野の自然を守る会の森川正昭氏が撮影した迫力ある写真で紹介いたします。会場はカワセミハウスです。7月1日の広報「ひの」でお知らせしました。

8月13日(日) 2017夏の水車イベント「水車っておもしろい！たのしい！うれしい！」

日野の水車活用プロジェクト主催で13:00～15:00に開催されます。場所は向島用水親水路の水車小屋で、水車を活用した粃(もみ)すりや精米実験、発電実験をします。お問い合わせは080-8891-4930(水車活用プロジェクト事務局)までお願いします。

★8月5日(土)(雨天の場合6日) カワセミハウスを会場として黒川子ども会主催の「夏祭り」が開催されます★

《カワセミハウス施設概要》

開館時間：9:00～21:30

休館日：毎週月曜日、年末年始(月曜日が祝日の場合はその翌日)

情報発信ラウンジ：環境・地域のコミュニティの場や、散策時の休憩所としてご利用できるフリースペース

オープンキッチン：IHクッキングヒーターやオープンレンジを常備

集会室：会議等利用できる集会室3室(各室約30名収容)

パーティションを取り払うことで大きな部屋として使用可能
その他、授乳室、芝生広場もあります。

カワセミハウスは地域のコミュニティの場として集会室や情報発信ラウンジ等をご活用いただくことができます。

申請方法：使用日の属する月の3か月前の1日(各月最初の開館日)から使用当日までにハウス窓口に使用申請書を提出

*電話での仮予約も可能ですが仮予約後7日以内に窓口申請が必要です。

使用料：集会室1・2・3とも

午前(09:00～12:00) 300円

午後(13:00～17:00) 400円

夜間(18:00～21:30) 350円

全日(09:00～21:30) 1,050円

*集会室は1室ごとの料金です。

*環境市民団体や自治会等は使用料が減免になる場合があります。詳しくはお問い合わせください。

*集会室以外は無料で利用できます。

発行 日野市立カワセミハウス

〒191-0052 東京都日野市東豊田3-26-1

Tel/fax: 042-581-1164

Eメール: kawasemihouse@jcom.zaq.ne.jp